

まち・ひと・しごと創生日南町人口ビジョン・総合戦略
第三者評価委員会実施の報告について

平成28年9月7日
自立改革推進本部

1. 全体の概要について

○平成28年8月19日(金)に外部委員14名を構成員としたまち・ひと・しごと創生日南町人口ビジョン・総合戦略第三者評価委員会を開催。

○会議開催趣旨と内容は以下のとおり。

- (1) 実施事業ごとに設定したKPIの達成状況
- (2) 総合戦略改定にかかる協議
- (3) 前年度に実施した事業の実施状況
- (4) 現在の事業展開の報告

○上記4点についてそれぞれ、個別事業毎に担当課長から状況説明を行い、各委員それぞれから専門的見地からの質問や意見を頂いた。

○最終的に、各委員から指摘を受けた内容を踏まえ、今後の事業展開につなげていくこととし、同時に総合戦略の改定を行うこととする。(※平成28年9月末を目処)

2. 委員リスト

氏名	所属	役職	役割
前田 芳昭	日本政策金融公庫米子支店	支店長	外部有識
天崎 直幸	日南町商工会	会長	産
入澤 淳 (代理出席)	日南町森林組合	代表理事組合長	産
絹谷 健一	日南物産株式会社	取締役	産
坪倉 孔喜	鳥取県日野振興センター	日南町コンシェルジュ	官
中村 崇	経済産業省中国経済産業局	日南町縁(ゆかり)パートナー	官
谷本 圭志	鳥取大学	工学部教授	学
田辺 大起	日南病院	理学療法士	労
糸田川 啓	元農林業研修生(トマト農家)		労
山中 優子	日南保育園	保育士	労
今井 信行	山陰合同銀行生山支店	支店長	金
中島 宏二	鳥取銀行生山支店	支店長	金
加藤 典裕	株式会社中海テレビ放送	代表取締役専務	言
加藤 智子	移住定住支援員		住民代表

3. 各委員からの発言内容について(※代表的な発言内容例)

1. 既存の農林業研修生制度について、色々な面で弊害が生じている。今後新たな人の呼び込みをするにあたっては、現状の課題をきちんと把握し、改善を行う必要性がある。
2. 農業だけで生活をしていくことは非常に難しい。それ以外の仕事で稼ぐという手法には賛成。
3. 事業所保育や24時間保育の議論を行うにあたって、既存の保育制度や保育環境を無視できない。子育てについてはお母さんごとに色々な思いがあり、「保育そのものをどうしていくのか」という根本的な議論が必要。
4. 町内ブランド確立をするにあたって、販路拡大は必要不可欠。交付金を活用し色々な商品を開発したのはいいが、売り先がないとダメ。道の駅以外での販売も模索すること。
5. 農林業の人手不足は全国的にも同様。以前海外に視察に言ったが、林業関係に従事する人々は、地域の方々から尊敬されている風土があった。町内でもこのような風土を作っていく必要もあるのではないか。
6. 子供の学力低下が著しい。海外派遣を行い、英語力を向上させることは重要だが、基礎的な学力はそれとは別で向上させていくべき。
7. それぞれの課の連携が見えてこない。

4. 次回評価委員会開催における反省点について

今回、町として初めてこのような委員会を開催したが、当日の運営を含め、いくつかの課題を見出すことができた。次年度の評価委員会においては、以下の点について改善が求められる。

- 2時間半の設定で試みたが、時間が不足し、全ての事業につき詳細な意見を聞くことが出来なかった。意見に対する担当の回答もする時間もなくなってしまったため、次年度の運営については事業のボリュームから見た時間設定を行う必要がある。
- 開催時期について、もう少し早く実施する必要があると思われる。前年度の評価のみならず、今年度実施事業にかかる指摘事項等もあることから、最低6月後半あたりの開催にすべきではないか。
- 町民にオープンにしている関係で、委員のみならず傍聴者の方々からも意見を聞く時間を設けてもよいかと思われる。（※住民参画型がこの事業の趣旨である）
- いくつかの事業ですれ違い答弁が目立った。この場は否定的な意見を述べる場ではなく、それぞれ専門的立場から発言される意見を聞き、事業改善に反映させることを主眼とした場であること認識すべき。
- 自己評価に対しての見解を導くことが出来なかったため、自分達の判断が適正だったのかが不明瞭のままになってしまった。